

# 中田かわら版 9 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■この人に会いたい<71>

### 消防活動 地元を守って 35 年間

藍綬褒章受賞

泉消防団副団長

### 奥津 直行さん (63 歳) 宮の台町内会

昔、長後街道中田小学校入口交差点脇に「火の見櫓」(＝写真中段)があった。その傍の奥津塗装店で半鐘の音を聞きながら育った人が今日の「会いたい人」、藍綬褒章受章者奥津直行さんである。(＝写真右)

この褒章は公共活動への多大なる功績を評価された素晴らしい賞である。奥津さんは昭和 62 年 (1987) 地域青年団の先輩に誘われて泉消防団に入団した。以来 35 年間、父から受け継いだ本業の塗装店を育てながら、ひたすら消防団の仕事にも打ち込んできた。消防団の組織を教えてもらった。

横浜市の各区に一つずつの団があり (中区は 3 つ)、泉区には 5 分団まであって中田が属するのは第一分団で 3 班編成である。組織一覧はつぎのとおり。

団長～副団長～分団長＝本部部長＝副分団長～部長 (副部長)＝班長 (副班長)～団員 (約 450 人) 想像以上の職名と階級があって驚きだ。



さて、昨年 (2021) 副団長を拝命して早束手掛けたのが新規団員募集である。これまで手をこまねいていた訳ではないが、新たに広報部会を設置し関係各所にも本気度を示したのである。そして今横浜市内最多の新規入団者を迎える事が出来た。それには人脈はもとよりチラシ作成、消防署をはじめ関係各所のバックアップ等が大き



受賞の喜びを語る奥津さん (左)

力になった。ホームページには現在の団員 455 人のうち女性が 57 人、続々入団中！とある。奥津さんの巧みな手腕を感じる。

話の端々に訓練の大切さを語られた。「一瞬の判断ミスが重大な結果を招く。正確な手順を素早く処置できるための訓練の大切さを思いなさい」。これらが身に付いてこそいざという時の現場で役に立つ。団員には「訓練には積極的に参加し失敗を恐れず、しっかりやって仕事を覚えること」と言う。信条は「手を抜かない、思ったらすぐやる」。奥津さんの背筋がピンと張る。

なるほど、本業の塗装においてもその姿勢が貫かれている。得意先の評判の良いわけが分かった。スポーツ万能と伺ったがと向けると「コロナでね…」と言いつつ、ゴルフとボウリングの話で笑顔が 2 倍になった。ボウリングでは 300 点を達成するなど遊びにも手を抜かない、柔和な顔に頑固を潜ませている。

夫人とのなれそめは“伯父が勤める会社で事務員をやっていた”そうで、その後何があったかは語られなかった。今は塗装店 3 代目の成長を助けつつ事務を一手に引き受けている。

対談を終えて思った。この爽やかさは何だろうと。

(河内満明)

～一人ひとりが CO2 を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

## 街の美化活動 18年 梶田俊男さん (池谷自治会)

中田小学校近くの中央公園前のゴミ集積所で空き缶、空き瓶など毎朝のように分別作業をしている奇特なご夫婦がいる。池谷自治会(樋口輝正会長・515世帯)の梶田俊男さんと奥さんの早智さんだ。この日は火曜日で空き缶や瓶の回収日。午前7時過ぎ、一人の婦人が空き缶などの分別をやっていた。



や勇氣ある行動も素晴らしいと思う。これで胸に下げているプレートが謎が解けた。それは梶田さんが環境委員で活動したとき、つけていた委員証であり、誇りが染みついている。

梶田さんがこのボランティアを始めたきっかけが、当時のごみの出し方が

粗雑だったり、決められた日でない物が出されたり気になっていた。そのあまりに不潔さに一念発起、町内を回ってごみの片づけから始めたのだという。

紺色の帽子を被りマスク、ゴム手袋。首からプラスチックの名札ケースを首から吊るしている。「梶田さんという男性だと聞いていたが」。よく聞いてみると梶田さんの奥さんだった。梶田さんが一時期体調を崩し、仕事ができない時、その後を継いで代わってやるようになった。今は、また元気になって復帰しているが、その後も一緒に続けているのだという。今も女性一人でやっていると知らない人から「どこの誰？」と思われるので名札を付けているとか。そこには環境推進委員と書かれていた。そこへ梶田さんが自転車ですべて自治会内を巡回して帰ってきた。マスクをとって挨拶したとき、見たことがある顔だった。以前中田の環境委員として一緒に活動した梶田さんだった=写真。真面目で誠実で実行力のあった人柄が蘇ってきた。しかもこの仕事を18年間も続けているという。梶田さんの立派な勲章であると同時に奥さんの内助の功



アルミ缶の場合は鉄製など異物が混入されると、業者は引き取ってくれないことがある。ビール缶が圧倒的に多いだけに分別には神経を使う。アルミ缶は自治会にとってはいい財源となっている。だが、梶田さんには「街がきれいになれば、皆が気持ちよくなってくれるでしょう。自分の健康にもいいので、これからも続けていきたい」。この話の間にも樋口会長自ら分別に取り組んでいた。児童の登校時間になると樋口会長、この日案内役の児玉俊次さんらが担当の現場に駆けつけて行った。自治会一丸となって環境の美化に取り組む姿。その地域愛を改めて感じる。梶田さんの最初に撒いた小さな種が、今大きく開花している。(宮田貞夫)

### 編集後記

関東南部を除く日本列島が異常気象にさらされている。執筆中の今も何処ぞの川が危険だと言う。今年は梅雨明けがずいぶん早かった。かつて所属したクラブに平成9年に発表した句を見つけた。

**\*梅雨入り(ついで)ぞと 言えど雨など 気配なし**

**\*梅雨明けと 言えどはなから 雨は無し**

丁度 25 年前に空梅雨があったことを自分で記録していたのは何かうれしい。こんな年は冬が厳しいらしい、気を付けましょう。(河内満明)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、嶋 宏之